

## 見えるカビ，見えないカビ

橋本 一浩

(株)エフシージー総合研究所

皆様は自宅のどこでカビを見かけますでしょうか。浴室？洗濯機？周囲にカビが生えると、人は何らかの脅威を感じてあの手この手でカビを封じようと試みます。カビの脅威は人によって様々な捉え方があるでしょうが、当学会員の皆様にとっては室内空気の汚染でしょうか。訪問先の住宅の水回りがカビで真っ黒だと思わず呼吸を潜め、胞子の吸入を警戒します。ところが、室内浮遊カビを測定してみると汚染レベルはそれほど高くない。一方、水気もカビも全く見当たらないリビングで浮遊カビを測定してみたら、上限値を振り切っている。というような経験はよくあります。

水回りの黒いカビは、クラドスポリウム、フォーマ、オーレオバシディウム、エクソフィアラなどであることが当学会の先生方の研究で判っています。多くの人が思い浮かべる住環境の「黒カビ」はこれらが正体です。しかし、これらは建材における胞子の産生量が少なく、見た目には反してあまり空气中に飛び出して来ません。見えるカビは意外と飛んでこない。

では、住宅室内の上限値を振り切るカビはどこから飛んできているのでしょうか？これらの発生源は大抵、畳や絨毯です。いわゆるハウスダストに潜むアスペルギルスがその正体。カビの姿は見えませんがたくさんの胞子が空气中に飛び散ります。その場合、壁面などの黒カビの生え具合と、測定値がリンクしないので要注意です。

空気中から高濃度に検出されるカビがハウスダスト由来でない場合、室内環境に重大な異変が起きている可能性があります。例えば、水漏れ事故など何らかのトラブルがあった室内。通常では少数派の種類のカビが大発生していることが良くあります。普段、吸い込まないものを大量に吸い込む羽目になるので何が起ころか判りません。これらが壁内、床下、畳のウラなどに発生している場合、一見してカビが見えないので念入りの測定・調査が必要です。

また、汚染カビの主役が胞子を飛ばさないカビだと検出方法に注意です。例えば、写真に示すケトミウムは水回りの事故があった住宅の建材に大発生する様子をよく見ますが、空気中からはほとんど検出できません。カビが発生した患部から直接分離する必要があります。ケトミウムはセルロース分解性を持ち建材を劣化させてしまうので、見逃したくないカビです。

快適な室内環境の実現にカビの制御は重要です。アレルギー対策としては勿論ですが、カビだらけの部屋で生活するのは決して気分のいいものではありません。吸い込んで良い・悪いはさておき、気分も大事。カビ屋の私も自室にカビがない方が安心して眠れます。皆様もカビのないお部屋で快適におやすみください。

顕微鏡写真：  
飛んでこないカビ，ケトミウム（ケタマカビ）

